

3年下巻

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
	はなりの本の読みかき活動（図書館活用）	5～7 8	5 本を1冊に決めるために、グループで話し合う。 ・自分の役割を意識して、意見と理由を明確に話し合う。 6 学習を振り返る。 ・話し合いのしかたでよかったところを伝え合う。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。	
11月	れいの書かれ方に気をつけて読み、それをいかして書こう すがたをかえる大豆 食べ物のひみつを教えます 12時間（書⑥、読⑥） ◎比較や分類のしかた、辞書の使い方を理解し使うことができる。（知・技(2)イ） ◎書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくらせたり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができる。（思・判・表B(1)イ） ◎目的を意識して、中心となる語や文を見つけることができる。（思・判・表C(1)ウ） ○幅広く読書に親しみ、読書が必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づくことができる。（知・技(3)オ） ■筆者の説明の工夫を見つけ、食材について説明する文章を書く。 ☆食育に関わる題材（総合的な学習の時間） ☆食べ物について書かれた本を探す活動（図書館活用）	1 2～3 4～6 7～9 10～11 12	1 学習の見通しをもつ。 ・P43を見て、大豆について知っていることなどを話し合う。 ・教材文を読み、「問いをもと」「もくひょう」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 文章全体の組み立てに着目して内容を捉える。 ・「はじめ」「中」「終わり」に分け、文章の話題を確かめる。 ・筆者が「中」で挙げている具体例を、表などにしてノートに整理する。 3 「はじめ」に「問い」を入れるとしたら、どのような「問い」を入れるかを考える。 4 「中」の書かれ方について考える。 ・それぞれの段落の中心となる文に線を引く。 ・どのような順序で事例が挙げられているのかを捉える。 5 筆者の説明の工夫をまとめ、考えを交流する。 ・文章全体の組み立てと各段落の組み立て、言葉の使い方、写真の使い方などに着目する。 6 P51の食べ物について書かれた本を読み、感想をまとめて友達に伝える。 ・初めて知ったことや説明のしかたなどの観点から感想をもつ。 7 学習を振り返り、次の学習の見通しをもつ。 ・「たいせつ」で身につけた力を押さえる。 ・P52「問いをもと」「もくひょう」を基に、学習のめあてを確かめる。 8 取り上げる材料について、調べて整理する。 ・P53「調べたことを整理するとき」を参考にして、調べたことを図や表にして整理する。 9 文章の組み立てと例の書き方を考える。 ・P53「組み立てを考えたときは」を参考にし、段落や事例の順序などを考える。 10 説明する文章を書く。 ・考えた組み立てに沿って、説明する文章を書く。 11 友達と感想を伝え合う。 ・書き方と内容の両面から、文章のよいところを伝え合う。 12 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。	【知・技】 ・比較や分類のしかた、辞書の使い方を理解し使っている。（(2)イ） ・幅広く読書に親しみ、読書が必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づいている。（(3)オ） 【思・判・表】 ・「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくらせたり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。（B(1)イ） ・「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見つけている。（C(1)ウ） 【態】目的を意識して、粘り強く中心となる語や文を見つけたら、それらを明確にして文章の構成を考えたりし、学習の見通しをもって筆者の説明の工夫をいかした文章を書くこととしている。
11月	ことわざ・故事成語 4時間（知・技②、書②） ◎長い間使われてきたことわざや慣用句、故事成語などの意味を知り、使うことができる。（知・技(3)イ） ○目的を意識して、伝えたいことを明確にすることができる。（思・判・表B(1)ア） ■ことわざの意味を調べ、ことわざ辞典を作る。	1～2 3～4	1 知っていることわざや故事成語を出し合い、関心をもつ。 2 ことわざや故事成語について知る。 ・P57のことわざの意味を調べる。 ・P58の故事成語の意味や由来を調べたり、P152「知ると楽しい『故事成語』」を読んで故事成語への関心を広げたりする。 3 グループでことわざ辞典を作る。 ・好きなことわざを選び、意味と文例をカードに書く。 ・どのような順でとじるかを話し合う。 ・できあがったことわざ辞典を読み合い、感想を伝え合う。 ・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。	【知・技】長い間使われてきたことわざや慣用句、故事成語などの意味を知り、使っている。（(3)イ） 【思・判・表】「書くこと」において、目的を意識して、伝えたいことを明確にしている。（B(1)ア） 【態】積極的にことわざや慣用句、故事成語などの意味を知り、使い、学習課題に沿ってことわざ辞典を作ろうとしている。
11月	漢字の意味 2時間（知・技②） ◎漢字と仮名を用いた表記を理解して文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)ウ）	1～2	1 同じ発音でも、意味が違えば使われる漢字が違うことを知る。 ・漢字と仮名を交ぜて書くことで、意味が分かりやすくなることを理解する。 2 設問に取り組み、漢字を正しく使い分けて書 3 P154「これまでに習った漢字」から、同じ読み方で意味の異なる漢字を見つけ、短文を作る。	【知・技】漢字と仮名を用いた表記を理解して文や文章の中で使っている。（(1)ウ） 【態】積極的に漢字と仮名を用いた表記を理解し、これまでの学習をいかして文や文章の中で使おうとしている。

3年下巻

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
11月	短歌を楽しもう 1時間（知・技①） ◎易しい文語調の短歌を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。（知・技(3)ア） ☆我が国の伝統と文化に対する理解と愛情を養う題材（道徳）	1	1 短歌について知る。 ・短歌は「5・7・5・7・7」の31音で作られていることや、情景や心情が込められていることなどを確認する。 2 言葉の調子や響きを楽しみながら、声に出して繰り返し読む。 ・P63の二次元コードから、音声を聞くのもよ 3 気に入った短歌を暗唱する。	【知・技】易しい文語調の短歌を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。（(3)ア） 【態】進んで言葉の響きやリズムに親しみ、学習課題に沿って短歌を音読したり暗唱したりしようとしている。
11月	漢字の広場④ 2時間（書②） ◎第2学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ） ・間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えることができる。（思・判・表B(1)エ） ■絵を見て想像したことを基に文を書く。	1～2	1 提示されている漢字の読み方、書き方を確認す 2 P64の絵を見て、町の様子を説明する。 3 提示されている漢字を使って、町の様子を説明する文を書く。 4 書いた文を友達と読み合う。	【知・技】第2学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。（(1)エ） 【思・判・表】「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えている。（B(1)エ） 【態】積極的に第2学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習をいかして、漢字を適切に使った文を作ろうとしている。
12月	登場人物の行動や気持ちをとらえて、えらんだ民話をしようかしよう 三年とうげ 6時間（読⑥） ◎登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えることができる。（思・判・表C(1)イ） ○引用のしかたを理解し使うことができる。（知・技(2)イ） ○幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づくことができる。（知・技(3)オ） ○文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。（思・判・表C(1)オ） ■民話や昔話を紹介する。 ☆世界の文化に対する興味・関心を促し、その理解を図る題材（道徳、総合的な学習の時間） ☆民話や昔話を探す活動（図書館活用）	1 2～3 4 5～6	1 学習の見直しをもつ。 ・これまでに読んだ民話や昔話を想起し、どんなところがおもしろかったかを伝え合う。 ・P65を見て、どのような内容の民話かを想像する。 ・教材文を読み、「問いをもとう」「もくひょう」を基に学習課題を設定し、学習計画を立てる。 ・並行読書を行う場合は、P77「この本、読もう」なども参考にし、学校図書館などで民話や 2 「三年とうげ」の内容や書かれ方を確かめる。 ・設定、登場人物、出来事、展開、登場人物の行動や気持ちなどの観点から内容をまとめる。 3 「おじいさん」の変化を捉える。 ・行動や様子を表す言葉に着目し、ノートにまとめる。 4 「三年とうげ」のおもしろいところをノートに書く。 ・出来事、登場人物の行動や気持ち、考え方、 5 民話を選んで読み、紹介する文章を書く。 ・おもしろいところを引用しながら、民話を紹介する文章を書く。 6 書いた文章を読み合い、感想を交流する。 7 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。	【知・技】 ・引用のしかたを理解し使っている。（(2)イ） ・幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づいている。（(3)オ） 【思・判・表】 ・「読むこと」において、登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えている。（C(1)イ） ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。（C(1)オ） 【態】登場人物の行動や気持ちなどについて、積極的に叙述を基に捉え、学習課題に沿って民話や昔話を紹介しようとしている。
12月	しょうかいする文章を書き、感想をつたえ合おう わたしの町のよいところ 10時間（書⑩） ◎書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけすることができる。（思・判・表B(1)オ） ○考えとそれを支える理由について理解することができる。（知・技(2)ア） ■町のよさを紹介する文章を書く。 ☆身近な地域を観察・調査する題材（社会） ☆文章に適切な写真の撮影（ICT活用）	1 2～3 4～5 6～8 9～10	1 学習の見直しをもつ。 ・自分が住む町には、どのようなものがあるかを想起する。 ・「問いをもとう」「もくひょう」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 紹介するものを決める。 ・紹介したいものとその理由を図を使って書き出し、書くことを選ぶ。 3 組み立てを考える。 ・P83「水野さんの組み立てメモ」を参考にし、どのような順序で書かかを考える。 4 紹介する文章を書く。 ・P84「水野さんが書いた、しょうかいする文章」を読み、紹介する文章を書くときのポイントを確認する。 5 書いた文章を読み合い、感想を伝え合う。 ・内容と書き方の両面から感想を伝え合い、自分の文章のよい点を考える。 6 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。	【知・技】考えとそれを支える理由について理解している。（(2)ア） 【思・判・表】「書くこと」において、書こうとしたことが明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけている。（B(1)オ） 【態】積極的に文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけ、学習課題に沿って町のよさを紹介する文章を書こうとしている。
12月	冬のくらし 2時間（書②） ◎語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ） ○経験したことや想像したことなどから書こうとしたことを選び、伝えたいこと	1 2	1 「ゆき」を読み、生活の中で冬らしさを感じることを挙げる。 ・教科書の言葉や絵から知っていることを発表したり、連想する言葉を出し合ったりする。 2 身の回りで見つけた冬を感じたものについて、ノートに書く。	【知・技】語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語彙を豊かにしている。（(1)オ） 【思・判・表】経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にしている。（B(1)ア）

3年下巻

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
	<p>「書くこと」を選び、伝えたいことを明確にすることができる。(思・判・表B(1)ア)</p> <p>■冬を感じたことについて文章に書く。</p> <p>☆我が国の伝統と文化に対する理解と愛情を養う題材(道徳)</p> <p>☆冬を感じたものの撮影(ICT活用)</p>		<p>3 書いた文章を友達と読み合い、感想を交流する。</p>	<p>(B(1)ア)</p> <p>【態】積極的に語句の量を増し、話や文章の中で使い、学習課題に沿ってその季節らしさを表現した文章を書こうとしている。</p>
1月	<p>詩のくふうを楽しもう</p> <p>4時間(書②、読②)</p> <p>○文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読することができる。(知・技(1)ク)</p> <p>○文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけることができる。(思・判・表B(1)オ)</p> <p>○文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。(思・判・表C(1)オ)</p> <p>■詩を創作する。</p> <p>☆詩を探す活動(図書館活用)</p>	1 2~4	<p>1 6編の詩を音読し、詩の工夫を見つける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉のリズムや響きを楽しみながら音読する。 ・それぞれの行の最初の字をつなげたり、文字や詩全体の形を絵のように見たりする。 <p>2 6編の詩の中から好きな詩を選び、おもしろいと思うところを友達と話し合う。</p> <p>3 詩を創作する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6編の詩の工夫をいかしながら創作する。 <p>4 作った詩を友達と読み合い、交流する。</p> <p>5 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動を通して気づいた詩のおもしろさを発表する。 	<p>【知・技】文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読している。(1)ク)</p> <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「書くこと」において、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけている。(B(1)オ) ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(C(1)オ) <p>【態】進んで文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読し、学習課題に沿って詩を創作しようとしている。</p>
1月	<p>四まいの絵を使って</p> <p>2時間(書②)</p> <p>◎書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができる。(思・判・表B(1)イ)</p> <p>○段落の役割について理解することができる。(知・技(1)カ)</p>	1~2	<p>1 物語の基本的な組み立てを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「始まり」「出来事」「解決」「結び」という組み立てを知る。 ・「三年とうげ」の組み立てを確認する。 <p>2 4枚の絵を並べ替えて、一つの物語を作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの絵について考えたことを、簡単に書き出す。 ・物語の基本的な組み立てを参考にして、おおまかな話の流れをメモする。 <p>3 考えた物語の内容を友達と交流し、感想を伝える。</p> <p>4 学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 	<p>【知・技】段落の役割について理解している。(1)カ)</p> <p>【思・判・表】「書くこと」において、書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えている。(B(1)イ)</p> <p>【態】書く内容の中心を明確にし、文章の構成を考えることに粘り強く取り組み、学習課題に沿って物語の流れを書こうとしている。</p>
1月	<p>カンジーはかせの音訓かるた</p> <p>2時間(知・技②)</p> <p>◎第3学年までに配当されている漢字を読むことができる。また、第2学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第3学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ)</p>	1~2	<p>1 設問の「カンジーはかせが作った歌」を音読する。</p> <p>2 漢字の音と訓を両方使った歌を作る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P95「作り方」を参考にして歌を作る。P154「これまでに習った漢字」、P159「この本で習う漢字」を参考にしてもよい。 ・正しく音と訓が使えているかを確認する。 <p>3 作った歌を友達と読み合う。</p>	<p>【知・技】第3学年までに配当されている漢字を読んでいる。また、第2学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うとともに、第3学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使っている。(1)エ)</p> <p>【態】進んで第3学年までに配当されている漢字を読み、学習課題に沿って漢字の音訓を使った文を書こうとしている。</p>
1月	<p>漢字の広場⑤</p> <p>2時間(書②)</p> <p>◎第2学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。(知・技(1)エ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えることができる。(思・判・表B(1)エ) <p>■絵を見て想像したことを基に文を書く。</p>	1~2	<p>1 提示されている漢字の読み方、書き方を確認する。</p> <p>2 P96の絵を見て、学校でどんなことをしているのかを説明する。</p> <p>3 提示されている漢字を使って、日記をつけるように学校の様子を書く。</p> <p>4 書いた文を友達と読み合う。</p>	<p>【知・技】第2学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。(1)エ)</p> <p>【思・判・表】「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確認したりして、文や文章を整えている。(B(1)エ)</p> <p>【態】積極的に第2学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習をいかして、漢字を適切に使った文を作ろうとしている。</p>
1月	<p>読んで考えたことをつたえ合おう</p> <p>ありの行列</p> <p>7時間(読⑦)</p> <p>◎指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解することができる。(知・技(1)カ)</p> <p>◎文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。(思・判・表C(1)オ)</p> <p>◎文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づくことができる。(思・判・表C(1)カ)</p> <p>○言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解することができる。(知・技(1)オ)</p> <p>■文章を読んで考えたことを伝え合う。</p> <p>☆生き物の生態や不思議さに目を向けさせる題材(理科)</p>	1 2~5 6 7	<p>1 学習の見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P97を見て、ありやありの行列について知っていることを出し合う。 ・「問いをもとう」「もくひょう」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 <p>2 「ありの行列」で説明されていることを確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「問い」と「答え」が、どの段落にどのように書かれているかを捉える。 ・ウイilsonが調べたことやそこから考えたことについて、書かれていることを短くまとめる。 <p>3 ウイilsonの研究の進め方、ありが行列を作る仕組みについて、書かれていることを短くまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・P104「言葉に着目しよう」を参考にして、段 <p>4 「ありの行列」とP103「もつと読もう」を読んで、考えたことを文章にまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・興味をもったこと、もつと知りたいことを中心にして書く。 <p>5 書いた文章を友達と読み合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共通点や相違点を見つけて伝え合う。 	<p>【知・技】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解している。(1)オ) ・指示する語句と接続する語句の役割、段落の役割について理解している。(1)カ) <p>【思・判・表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。(C(1)オ) ・「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づいている。(C(1)カ) <p>【態】進んで文章を読んで理解したことに基づいて感想や考えをもち、学習課題に沿って、考えたことを伝え合おうとしている。</p>

3年下巻

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
			6 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 ・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。	
1月 ～ 2月	言葉について考えよう つたわる言葉で表そう 5時間（知・技②、書③） ◎言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づくことができる。（知・技(1)ア） ◎様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ） ○自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。（思・判・表B(1)ウ） ■相手に伝わる文章を書く。 ☆体験したことを報告する文章にまとめる活動（社会、総合的な学習の時間）	1～3 4～5	1 学習の見直しをもつ。 ・P107を読み、「問いをもとう」を基に、伝えたいことがうまく伝わらなかった理由について 2 体験したことや感じたことを、よりよく伝えるためにはどうするとよいかを考える。 ・様子や気持ちが伝わる言葉を使い、ロボロボの話し方を改善する。 ・似た意味でも言葉から受ける感じが違うことを知り、伝えたいことに合う言葉を選ぶ大切さを知る。 ・P109を読み、使える言葉を増やしていくきっかけについて考える 3 冬休みの出来事とそのときの気持ちを200字で書き、友達と読み合っ、学習の全体を振り返る。 ・P165「言葉のたから箱」を参考にしてもよい。	【知・技】 ・言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づいている。（(1)ア） ・様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語彙を豊かにしている。（(1)オ） 【思・判・表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。（B(1)ウ） 【態】言葉には考えたことや思ったことを表す働きがあることに積極的に気づき、学習の見直しをもって相手に伝わる文章を書こうとしている。
2月	書き表し方をくふうして、物語を書こう たから島のぼうけん 8時間（書⑧） ◎様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ） ◎書き表し方を工夫することができる。（思・判・表B(1)ウ） ■物語を創作する。	1～3 4～6 7～8	1 学習の見直しをもつ。 ・宝物を探す冒険というと、どんな物語が思い浮かぶか考える。 ・「問いをもとう」「もくひょう」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 P112-113の地図から想像を広げ、物語の構想を練る。 ・P112「物語のないようを考えるときは」を確 3 物語の組み立てを考える。 ・P92「四まいの絵を使って」で学んだことをいかし、「始まり」「出来事」「解決」「結び」の組み立てに当てはめる。 4 物語を創作する。 ・P114-115「物語のれい」を読み、書き表し方のよさを見つける。 ・比喩や修飾語を用いるなどして、読み手を引きつけるように言葉を選んで書く。 ・P114「書き表し方を考えるときは」を参考に、表現を工夫して書く。 5 友達の物語を読み、感想を伝え合う。 ・物語の内容と言葉の使い方のよさを伝え合 6 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。	【知・技】様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにしている。（(1)オ） 【思・判・表】「書くこと」において、書き表し方を工夫している。（B(1)ウ） 【態】進んで様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにし、学習の見直しをもって物語を創作しようとしている。
2月	つたえたいことを、理由をあげて話そう お気に入りの場所、教えます 8時間（話・聞⑧） ◎相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すことができる。（知・技(1)イ） ◎相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるように話の構成を考えることができる。（思・判・表A(1)イ） ○考えとそれを支える理由や事例、全体と中心などの情報と情報との関係について理解することができる。（知・技(2)ア） ○話の中心や話す場面を意識して、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などを工夫することができる。（思・判・表A(1)ウ） ■お気に入りの場所を発表する。 ☆発表に適切な写真の撮影（ICT活用） ☆発表の練習を撮影し見返すことでよりよくする活動（ICT活用）	1～2 3～4 5～6	1 学習の見直しをもつ。 ・学校の中で自分が好きな場所を出し合う。 ・「問いをもとう」「もくひょう」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 みんなに教えたいお気に入りの場所と、その理由を考える。 ・P117「話すことを考えるときは」を参考に、お気に入りの場所について考えを整理する。 P167「図を使って考えよう」を参考にしてもよ 3 分かりやすく伝えるために、資料を用意する。 ・どのような資料が必要かを考え、必要に応じて写真を撮りに行くなどする。 4 組み立てを考え、発表メモを作る。 ・P118「発表メモのれい」やP119「発表のれい」を参考に、組み立ての工夫を見つける。 ・「はじめ」「中」「終わり」の組み立てを意識し、分かりやすく伝わるように発表メモを作 5 グループで練習をする。 ・P118の二次元コードの動画を見て、話し方の工夫を確認する。 ・P119「話し方をくふうするときは」を参考に、ポイントを意識して練習をする。 ・必要に応じて練習の様子を撮影し見返して、話し方をよりよくする。	【知・技】 ・相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話している。（(1)イ） ・考えとそれを支える理由や事例、全体と中心などの情報と情報との関係について理解している。（(2)ア） 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるように話の構成を考え、学習課題に沿ってお気に入りの場所を発表しようとしている。

